



埋文だより

第5号

平成6年3月25日発行



縄文時代早期の土偶と壺形土器

九州最古の土偶と完全な形の壺形土器出土

(国分市上野原遺跡)

土偶は、縄文時代早期で今から7000年～8000年前のもので、これまでに西日本では大阪府神並遺跡で2例出土しただけの大変珍しいものです。両腕を広げた状態の女性をかたどり、頭は簡単な三角形で、乳房も表現されています。胴の下半には何本もの細い線が描かれています。

土偶は子孫の繁栄や豊作を願ったり、けがや病気の身代わりのもと考えられています。

壺形土器も縄文時代早期で、平椀式土器と呼

ばれるものです。完全な土器が2個体並べられて穴の中に埋めてありました。

このような状態で出土したことは、儀式とかお祭りなどの特殊なことに使用されたものと思われる。

上野原遺跡では、この他にも耳栓や特殊な土製品等が出土しており、縄文時代早期という早い時期から高度な精神文化が発達していたものと想像されます。

平成5年度の主な発掘調査

上野原遺跡（国分市）

平成5年度の調査では、昨年度と同様縄文時代後期頃の陥し穴や、縄文時代早期の集石遺構が数多く検出されました。

遺物は、縄文時代早期の平椀式土器がたくさん出土しました。中でも完全な壺形土器2個体が並んで出土したことは、注目されるものでした。また、それに伴い土偶・耳栓・小型土器・注口状土製品・用途不明の土製品や環状石斧等の特殊なものも出土しました。これは、日常的に使用されるものではなく、お祭りなどに使われたのではないかと考えられています。このことから、南九州でも早い時期から高度な精神文化が発達していたものと想像できます。

仁田尾遺跡（日置郡松元町）

仁田尾遺跡は、旧石器時代から現代までの長期にわたる複合遺跡で、陥し穴や集石などの遺構と多くの遺物が発見されています。

約1万2千年前の細石器文化の陥し穴は、底面に杭跡があるものとしては日本最古と考えられ、注目を集めています。

遺物では、旧石器時代のナイフ形石器や細石器などが約3万点も出土したほか、縄文時代の土器や石器も数多く出ています。

前原遺跡（日置郡松元町）

前原遺跡は、標高約180mの台地の端に位置し平成3年度から調査を行っています。本年度は縄文時代の遺構の実測と旧石器時代の発掘を中心に行いました。薩摩層と呼ばれる11,000年前に桜島が大噴火した時の火山灰の下から石鏃と土器が見つかりました。土器はこれまで

発見されている草創期の爪形文土器や隆帯文土器と違って、竹串を突き刺したような文様がつけられています。さらに、薩摩層よりも三枚下の層から三稜尖頭器と呼ばれる石器も見つかりました。

同じ町内にある仁田尾遺跡の資料と組み合わせると、層ごとの石器の移り変わりがはっきりわかり、これからの研究に大いに活用できる資料が得られました。

白水A遺跡ほか（鹿屋市）

国道220号線古江バイパス建設にともない平成5年7月から調査を行っています。遺跡は白水A・B及び萩ヶ峯A遺跡です。確認調査を12月まで行い、1月から白水B遺跡の前面調査を行っています。

確認調査の結果から、白水A遺跡は古墳時代白水B遺跡は古墳時代・縄文時代晩期、萩ヶ峯A遺跡は縄文時代早期・晩期及び古墳時代の遺跡であることが判明しました。

武遺跡（鹿児島市）

武遺跡は西鹿児島駅の西口を出たところであり、九州新幹線関係の工事にともなって発掘調査を行いました。

縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代の土器が出土し、古墳時代の溝や住居跡、江戸時代の水田の溝も確認されました。

特に、縄文時代の土器で瀬戸内海近辺のものや弥生時代の土器で熊本のものもあり、その当時の交流をうかがい知ることができます。そして、時代は特定できませんが、県内で2例目の「大珠」も発見されました。



大珠（武遺跡）

舞鶴城跡（国分市）

舞鶴城跡は、県立国分高等学校体育館の建て替えにともなって発掘調査を行いました。調査は、島津義久によって築城された舞鶴城跡（約400年前）を主体にすすめましたが、ほとんど壊されて残っていませんでした。

しかし城跡の下層からは、中世の陶磁器や水田跡、古墳時代の土器や溝、さらに最下層からは弥生時代の多数の土器片とともに、堅穴住居跡1基、石包丁、破鏡が見つかりました。

破鏡は復元直径7cm程度の青銅鏡で、後漢時代の中国でつくられた「方格T字鏡」と呼ばれるものです。穴にひもを通して、首からつるしていたと考えられます。

この破鏡の出土は、本県の弥生時代の様子を解明するうえで貴重なものとなりました。

中尾遺跡（肝属郡吾平町）

中尾遺跡は平成3年度から調査が始まり、これまでに古墳時代（約1,500年前）の堅穴住居跡やそれらを取り囲むと考えられる溝状の遺構などが見つかりました。また大量の成川式土器や鉄製農具なども見つかっています。

当時の人々の食生活をうかがわせる甗（穀物を蒸す道具）や直径約4cmの鉄製の鈴なども発見され、大隅地方の古墳時代の集落を考える上でとても重要な遺跡であることがわかりました。

二本木遺跡（枕崎市）

枕崎市立立神中学校の校舎部分の緊急発掘調査で、平成5年5月～6月にかけて、市教委が調査主体となり、調査員が埋文センターより派遣され調査を行いました。アカホヤ層の下位より塞ノ神式に伴う住居跡が3基、さらにAT層直上よりチャートの剥片が数点出土しました。住居跡は2段掘りとなっており、河水による堆積層により被覆されていました。AT層上位の旧石器時代文化層も確認されており、今後の調査が期待されます。なお、AT層のC¹⁴測定は、25,380±880の数値が出ています。



縄文時代早期住居跡（二本木遺跡）

甫立原遺跡（薩摩郡宮之城町）

甫立原遺跡は、平成5年度に畑地の圃場整備事業にともなって発掘調査を行いました。

II層のアカホヤ火山灰層の下層から縄文早期の押型文土器やそれにともなう石器などが大量に出土しました。押型文土器にともなって集石遺構2基も検出されました。押型文土器が主体に出土する遺跡は本県では珍しく、非常に注目されています。

その他に縄文後期～晩期ごろの陥し穴状土坑4基や風倒木の痕跡と考えられる地層横転などが多数見つかっています。

平成5年度 発掘調査等一覧表

1. 発掘調査

遺跡名	事業名	事業主体者
前原遺跡他 松元町	西回り自動車道	建設省
仁田尾遺跡 松元町	〃	〃
中原A遺跡他 始良町	国道10号バイパス	〃
白水A遺跡他 鹿屋市	国道220号バイパス	〃
武A遺跡他 鹿児島市	西鹿児島駅緊急整備	日本鉄道建設公団
上野原遺跡 国分市	国分上野原テクノパーク	県開発公社
針原遺跡 市来町	主要地方道郷戸・市来線整備	県土木部
火ノ上山遺跡 上屋久町	宮之浦港改修工事	〃
郡遺跡 額娃町	国道226号道路改良工事	〃
舞鶴城跡 国分市	国分高校屋体建設	県教委
中尾遺跡 吾平町	県道神野・折生野・吾平線改良工事	県土木部
平松城跡 末吉町	一般地方道飯野・松山・都城線改良工事	〃
一湊松山遺跡 上屋久町	一般地方道整備	〃
尾崎A・B遺跡 出水市	国道328号改良工事	〃
鳥ノ峯遺跡 中種子町	主要地方道西之表・南種子線特殊改良工事	〃
東田遺跡 高山町	県道高山・吾平線道路整備	〃

遺跡名	事業名	事業主体者
40遺跡 19市町	県営農業基盤整備事業	県農政部
下牧地遺跡他 大根占町	国営肝属南部農地開拓	農林水産省
15遺跡 14市町	市町単独	各市町

2. 分布調査

分布調査名	事業目的	事業内容
一般埋蔵文化財分布調査	県営農業基盤整備事業等 各種開発予定地内の埋蔵文化財分布調査	県下延115市町村
北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査	事前に埋蔵文化財の分布調査を実施し、埋蔵文化財保護と開発の調整を図る。	宮之城町 薩摩町 103遺跡 発見
サン・オーシャンリゾート地域埋蔵文化財分布調査	サン・オーシャンリゾート計画地について分布調査を実施し、埋蔵文化財の保護と開発との調整に必要な資料の整備を図る。	指宿市、喜入町、山川町、開聞町三島村 55遺跡発見

3. 発掘調査報告書作成（国・県・市町村関係）

遺跡名	所在地	調査主体
千迫遺跡	加治木町	県教委
浅川牧遺跡	西之表市	〃
保養院遺跡	始良町	〃
西丸尾B遺跡	鹿屋市	〃
中川A・B遺跡	串良町	串良町教委
永葉山遺跡	大口市	大口市教委
浜須A・B遺跡	知名町	知名町教委
中尾立遺跡	福山町	福山町教委
水流遺跡	樋脇町	樋脇町教委
砂田遺跡	額娃町	額娃町教委

発掘調査紹介(5)

ひがし だ 東田遺跡

《所在地：肝属郡高山町》

東田遺跡は志布志湾にそそぐ肝属川河口に近い標高約5mの低地にある遺跡です。平成5



堅穴住居跡群

年度は、県道の改良工事にともなう前年度調査区の東側に隣接する区域の調査を行いました。特に注目されるのは古墳時代を中心とした堅穴住居跡が40基検出されたことです。

また、標高約5mの低地にこれだけの大集落が営まれていたことも新しい発見でした。

堅穴住居跡の多くは重なり合っただけで検出されましたが、ほぼ全形が検出されたものの多くは平面形が一辺約5mの方形で、中央に炉をもち、それを取り囲むように4本の主柱があるというタイプでした。また、これらの住居跡の中には多くの完形土器をもつ直径80cm程度の土坑もあり、堅穴住居の内部構造あるいは住空間の利用法、また土器のセット関係などをつかむ上で貴重な資料を得ることができました。

これらの資料や得られた情報は、日本最南端の古墳群をもつ大隅半島の古墳時代を究明する上で、基礎的な資料となるでしょう。

最新の出土品から(5)

たいもん 隆帯文土器

《奥ノ仁田遺跡：西之表市立山奥ノ仁田》

奥ノ仁田遺跡は、過疎基幹農道整備事業に伴い平成5年度に緊急発掘調査が実施され、調査対象面積約1,000㎡から縄文時代早期と縄文時代草創期の遺構や遺物が出土しました。

縄文時代草創期(約12,000年前)の遺跡が鹿児島県本土より南で発見されたのは、初めてであり草創期の文化が海を隔てた種子島にまで広がったことが確認されました。

遺構としては、集石17基、配石遺構2基、土坑1基が検出され、遺物では隆帯文土器約1,000点、打製石鏃3点、磨製石鏃1点、石斧7点、磨石数十点、石皿数点が出土しました。

隆帯文土器は土器の表面に粘土ひもを帯の

ように貼りつけた土器で、帯の部分に爪、指やヘラ等で文様をつけてあります。奥ノ仁田遺跡から出土した隆帯文土器は帯の部分に二枚貝の縁で文様をつけてあるものがほとんどであり、この文様はこれまで極めて類例の少ないものです。



(正面) 隆帯文土器 (横)

写真撮影・報告書・遺物の展示

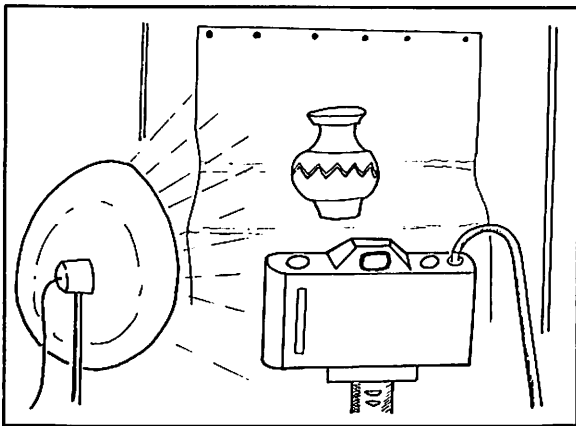
写真撮影

前回紹介した実測、拓本と並んで、出土遺物を記録し資料化するための方法として用いられるのが写真撮影です。

写真撮影は実測図や拓本と違い、記録者の主観に惑わされることなく、客観的に資料を記録・表現する手段として有効です。

写真撮影で資料化する出土遺物には、大きさや種類など様々なものがあるので、遺物の特質や年代順をよりよく表すような配慮が必要です。特に考古学で必要とする写真は、美術写真とは違うので、遺物を最も素直な形で見るという点に重点が置かれます。

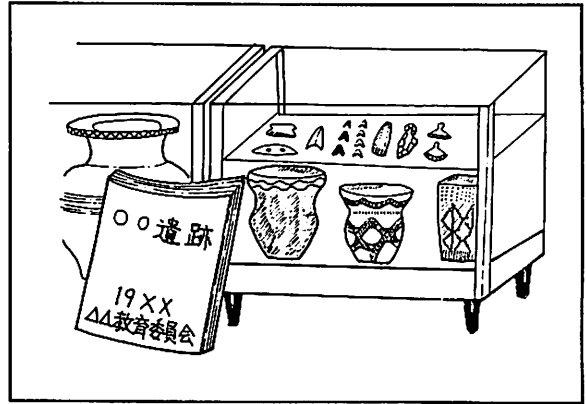
また、最近では科学分析の結果など、マイクロ単位の表現にも写真撮影が用いられるようになってきました。



報告書

遺跡から出土した遺物は、これまでの遺物整理の仕事で紹介したような手順で整理された後、遺跡で検出された遺構の図や写真などと一緒に報告書にまとめられます。

報告書は発掘調査事業の学術集成であり、それに盛り込まれる内容は、個人的な所見を述べるものではなく、発掘調査員の共通見解でな



ればなりません。

報告書の刊行は、発掘調査の結果を公表するという義務であり、概ね報告書作成が発掘調査の最終作業となります。

発掘調査が終了した遺跡は元の状態に戻すことができないので、精密な発掘調査や丁寧な報告書作成を通して、紙上に記録するという形で遺跡が永久保存されます。

遺物展示

全ての整理作業が終わった遺物は、いつでも取り出して見ることができるよう、遺跡ごとに分類して収蔵室に保管されます。その中でも特に代表的な遺物は、展示して一般の方々にも見ていただけるように展示します。

当センターでも展示コーナーを設け、本県の代表的な遺跡の出土品を時代ごとに展示しています。また、出土遺物は発掘されてから展示されるまでに時間がかかるという欠点をカバーし、最新の発掘調査の結果を速報的に展示する速報展のコーナーも設けています。

これらの展示コーナーを通し、県民が埋蔵文化財に身近に接することができる場を提供することにしています。

縄文時代

縄文時代は、約1万年もの長い間続いた時代で、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に分けて語られるのがふつうです。

この時代は、洞穴を利用したり、堅穴住居に住み、集落をつくり、貝塚も残しました。

縄文人は、おもに狩猟や漁労、木の実などの植物採取をおこなって生活していたと考えられています。

縄文時代のコーナーでは、時代名の由来でもある縄文土器の移り変わりを軸として展示してあります。

草創期については、「旧石器時代から縄文時代へ」のコーナーで取り扱っていることは前回紹介したとおりです。

縄文時代についての大きな説明パネルのところから早期の展示が始まります。この時期の南九州は遺跡数が多く、展示スペースも広く設けてあります。なかでも角筒形の土器やこの時期のものとしては非常に珍しい壺形の土器などが目を引きます。

現在でも桜島をはじめとする多くの活火山をかかえている南九州は、縄文時代にも、数回の大噴火を経験しています。その代表として鬼界カルデラの大噴火があります。これは、今から約6,300年前に、硫黄島付近の海底カルデラが噴火したもので、その噴出物はアカホヤ火山灰などと呼ばれ、時間のものさしとして重要な目安となっています。

このアカホヤ火山灰（透明の筒に入っている）を境に前期以降が展示してあります。火山活動の影響か、南九州では前期・中期の遺跡が比較的少ないと言えます。

中期末から後期になると、遺跡数も次第に増

え、中でも後期中葉の市来式土器を使う時期はほかの地域との交流や接触がより多く見られるようになります。また南九州ではめずらしく貝塚も残され、骨角器や貝製品などのふつうは残らない遺物もみられます。本センターには、日置郡市来町の川上（市来）貝塚から剥ぎ取った貝層が展示されています。

南九州の縄文土器は、いわゆる縄目の文様をもつものは少なく、貝殻で文様をつけたものが多いという特色があります。

晩期になるとその文様も少なくなり、数条の線が引かれる程度になります。しかし器の種類は増え、鹿屋市の中ノ原遺跡の堅穴住居跡から出土した土器の組み合わせ（セット）はその様子を良くあらわしています。

これら土器の流れとともに、石器や土製品などもそれぞれの時期に合わせて展示してあります。

また、展示フロアには、加栗山遺跡で検出さ

れ剥ぎ取られた集石遺構が展示されています。平面の4分の1がカットされ、この遺構が約1万1千年前に噴出した薩摩火山灰層のやや上に築かれている様子を観察することができます。



市来貝塚の貝層

主なできごと

1月28日（金） 職員研修

専修大学文学部教授 亀井明德先生

「貿易陶磁器の取り扱いについて」

- ・貿易陶磁器（特に青磁・白磁）の編年について
- ・基本的な実測の仕方

2月28日（月） 職員研修

慶應義塾大学名誉教授

松阪大学政治・経済学部教授 江坂輝彌先生

「土偶について」

- ・巻頭で特集した上野原遺跡の土偶に関連した中国・朝鮮半島の土偶の様子について

入館者の状況（平成5年度）

2年目を迎えた本年度は、前年度の同期に比べて約2千名の減となっております。主な原因としては、8月の豪雨、台風等により見学申し込みのキャンセルが相次いだことが考えられます。小学生の入館者は増加しております。本

年度は国分高校生のマイスクールプランニング事業の一環としての研修が実施されましたが、初めて手に触れ未知への世界に一步踏み込んだ気持ちと、感想を述べていました。今後、中・高校生の入館者増を期待しております。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
個人	94	141	105	193	303	108	150	87	114	54	75	1,424
団体	713	229	322	469	62	39	480	294	146	147	35	2,936
その他		34	182	90		34	34			77		451
計	807	404	609	752	365	181	664	381	260	278	110	4,811

【Contents】

The earliest Jomon Figurine in kyushu and Jar-shaped potteries without lack.

The most noteworthy excavations in 1993.

- Uenohara Site-
- Nitao Site-
- Maebaru Site-
- Shiramizu A Site-
- Take Site-
- Maizuru Site-
- Nakao Site-
- Nihongi Site-

-Hotatebaru Site-

Excavations in 1993.

The site under excavation. (Part5)

- Higashida Site-

Artifacts most recently unearthed. (Part5)

- Pottery with linear applique-

Arrangement of artifacts. (Part4)

- Taking Photographs・Making reports・Exhibition of artifacts-

From the Exhibition room.

- Jomon period-

Highlights in the Institute.

Utilization in 1993.

埋文だより 第5号

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995 (65) 8787

FAX 0995 (65) 8117